

テーマ	中間試験 (Ⅱ)						
学籍番号							氏名

1. 経法製作所では、甲と乙という異種製品を同一工程で連続生産している。製品原価の計算方法としては、甲製品と乙製品を組別に計算する組別総合原価計算を採用しており、組間接費の配賦は、機械運転時間を基準に行っている。また、甲製品については、2つの工程を経て生産しており、累加法による工程別総合原価計算を行っている。乙製品は、等級製品 (S、M、L) を製造しており、その際、工程の終点で副産物が分離される。原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価とに配分する方法は、甲製品第 1 工程および乙製品では平均法、甲製品第 2 工程では先入先出法を用いること。なお、仕損・減損については、正常な範囲内のものであり、度外視法により、仕損費、減損費はすべて良品に負担させている。以下の資料に基づき、回答欄に適当な金額を記入しなさい。

(100 点 : 10 点×10)

〔生産データ〕

甲製品

	第 1 工程		第 2 工程	
月初仕掛品	300 個	(40%)	月初仕掛品	400 個 (50%)
当月投入	1,600 個		当月投入	1,120 個
合計	1,900 個		合計	1,520 個
月末仕掛品	400 個	(50%)	月末仕掛品	100 個 (80%)
仕損	100 個	(80%)	仕損	100 個
完成品	1,400 個		完成品	1,320 個

乙製品

月初仕掛品	200 個	(20%)
当月投入	1,980 個	
合計	2,180 個	
月末仕掛品	300 個	(60%)
減損	80 個	(30%)
完成品	1,800 個	

※ () 内は加工進捗度を示している。

※A 材料は甲製品第 1 工程の始点で投入している。

※B 材料は甲製品第 1 工程の終点で投入している。

※C 材料は乙製品の始点で投入している。

※D 材料は乙製品の加工進捗度 50% で投入している。

※E 材料は甲製品第 2 工程において平均的に投入している。

※甲製品第 2 工程の仕損は終点で発生している。

※乙製品完成品 1,800 個の内訳は、S : 700 個、M : 800 個、L : 300 個である。

〔原価データ〕

甲製品 : 第 1 工程

	A 材料費	B 材料費	加工費
月初仕掛品原価	¥24,200	¥0	¥6,600
当月製造費用	¥108,800	¥25,400	¥?

テーマ	中間試験（Ⅱ）						
学籍番号							氏名

甲製品：第2工程

	前工程費	E材料費	加工費
月初仕掛品原価	¥32,000	¥22,800	¥36,000
当月製造費用	¥?	¥182,000	¥390,000

乙製品

	C材料費	D材料費	加工費
月初仕掛品原価	¥25,500	¥0	¥4,020
当月製造費用	¥142,500	¥136,500	¥?

組間接費

¥486,000

〔その他〕

- ※甲製品第1工程、乙製品に対する機械運転時間は、それぞれ585時間、873時間である。
- ※乙製品の等価係数は、S：0.8、M：1、L：1.3である。
- ※甲製品第1工程の仕損品の処分価額は、ゼロである。
- ※甲製品第2工程の仕損品の処分価額は、1個当たり¥270であり、全額完成品から控除する。
- ※乙製品の副産物の評価額は、¥4,200であり、全額完成品から控除する。

甲製品完成品総合原価	円
甲製品完成品単位原価	円
甲製品第2工程月末仕掛品原価	円
乙製品（S）完成品総合原価	円
乙製品（S）完成品単位原価	円
乙製品（M）完成品総合原価	円
乙製品（M）完成品単位原価	円
乙製品（L）完成品総合原価	円
乙製品（L）完成品単位原価	円
乙製品月末仕掛品原価	円